



は じ め に

益子町は、豊かな自然と文化遺産に恵まれ、私たちは、先人が築いてきた歴史と伝統文化を守りつつ、益子ならではの潤いのある暮らしを続けてまいりました。

その中で、平成 18 年 3 月に策定した第 5 次総合振興計画が、本年 3 月で前期基本計画の期間を終了いたします。これまで、町民と行政が協働の取り組みによって、基本構想に定めた“「創造の器」に 未来かがやく 益子町”を目指して諸施策を進めてまいりました。あわせて、平成 18 年 11 月には総合振興計画の具体的行動計画として「ましこ再生計画」を策定し、この推進によって、さらにたくさんの協働が芽生え、地方自治の本来あるべき姿に近づいていることを実感しています。

しかし、この間、私たちを取り巻く環境には大きな変化が生じてきています。これまで、増加の一途にあった人口は減少に転じ、あわせて少子高齢化の波がいろいろなところに影響を及ぼすようになってきています。また、生活様式の変化や経済発展の陰で環境汚染や環境破壊が一層進み、世界中で顕在化しています。さらには、経済分野においても国際化の進展とともに、我が国の先進国としての地位が脅かされるという状況にもなってきています。そこに、地方分権の推進や国家財政逼迫の問題などが加わり、地方自治体の運営においては、住民サービスの向上を図りつつ、最少の経費で最大の効果を生み出すという経営の視点が不可欠となっています。

今回、第 5 次総合振興計画後期基本計画の策定にあたっては、以上のことを念頭に置きつつ、町民のみなさまにわかりやすく身近に感じてもらえるような計画づくりを心がけてまいりました。そのため、各自治会では地域懇談会を開催していただき、町内で活動する各種団体からは貴重なご意見、ご提案を頂戴し、一般の方 1,135 人にはまちづくりアンケートに協力をしていただきました。

この計画は、今後 5 年間ににおける町民と行政の協働によるまちづくりの行動指針となるものです。最終年度となる平成 27 年度には、目指す“「創造の器」に 未来かがやく 益子町”の姿に一步でも近づくことができるよう、みなさまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

終わりに、計画策定に際し、ご指導、ご助言をいただいた策定委員会委員の皆様に心からお礼申し上げます、ごあいさつといたします。

平成 23 年 3 月

益子町長 大塚 朋之